

# SUBARU ver.1 (コネクタ端子に空きがある場合)

## DAMD パフォーマンスステアリングホイール DPS360-RX 取付け手順 及び DPS 通信システム結線説明書

### 必要工具

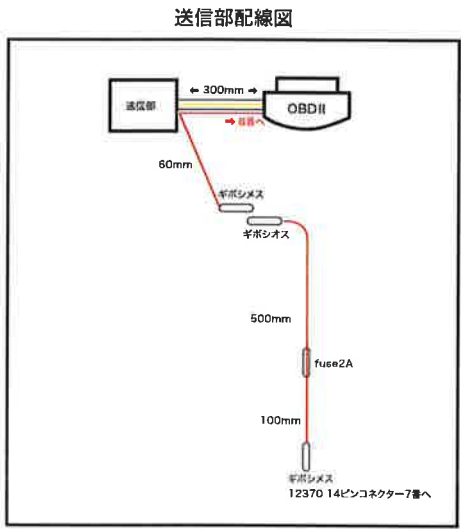


**\* 取付け時のご注意 \***

- 必ず平坦な場所で取付けを行って下さい。
- ステアリングはタイヤが真っ直ぐになるように調整してからイグニッションスイッチ OFF にし、作業に取り掛かってください。
- エアバッグを外した状態でイグニッションスイッチ ON にすると警告が出る場合がございます。この場合は、エアバッグを戻しエンジンをかけて時間をおくと初期状態に戻ります。

車両側、及びステアリング側の DPS への電源取付につきましては、車種、年式、グレード等で空きコネクタの位置が違います。テスターで車両側、及びステアリング側の空き端子の導通を確認後メス端子をコネクタに挿入してください。空きコネクタが埋まっている場合は付属の ver.2 取付説明書を参照してください。

構成部品	DPS本体	1
	OBDIIコネクタ・送信部	1
	受信部	1
	電源部ハーネス(赤)	1
	電源部4Pハーネス	1
	結束バンド / 配線固定フック	5本 / 2



手順 1 : 付属の SS360-RX 取付説明書を参考に現在装着されているステアリングを取り外します。DPS ステアリング側の配線を行います。

手順 2 : ステアリング側の WIFI 受信部のハーネスとステアリング側左右から出ている赤、青配線コネクタを L/R 間違わないように 2箇所結線し、電源部 4P ハーネスのコネクタも WIFI 受信部と結線します。4P ハーネス黄色の配線は使用しないので折り返し、テーピングし保護しましょう。



① ステアリング両側から出ている赤と青のケーブルがついたコネクタを受信部のコネクタと左右とも結線します。  
※L/R間違えないように注意してください。

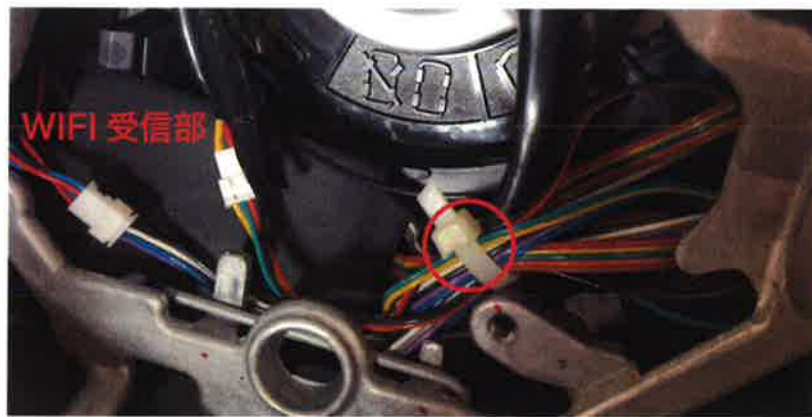
② 電源部 4P ハーネスコネクタも受信部と結線します。

手順 3 : 電源部 4P ハーネスのアース線黒の丸型ターミナルをステアリング左下の付属のネジで固定します。

※アース線はダイキャスト部に平行になるようお取り付けください。



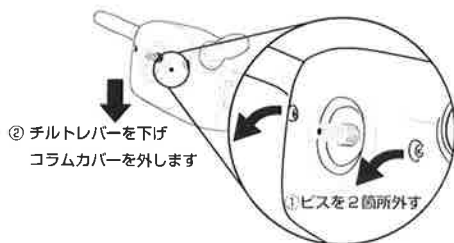
手順 4 : ステアリングホイール内の各ケーブルハーネスと WIFI 受信部をエアバッグのホーンズプリング部分に噛み込まないようにまとめてステアリングダイキャスト部分よりも前に配線類が出ないように結束バンドで固定し、ステアリングスイッチを組み付けて車体へ DPS を取り付けます。



○ように結束バンドを巻き、各ケーブルハーネスと WIFI 受信部をまとめます。

手順 5 : ステアリング後方のコラムカバーのビスを2箇所外し、チルトレバーを下げ、カバーを取り外します。

この時点で送信部と OBD II を装着し、付属の OBD II ギボシ雌端子と電源部ハーネス ( 赤 ) のギボシ雄端子をつなぎ、電源部ハーネス ( 赤 ) をコラムカバーまで通し配線します。



取付位置



送信部

電源部ハーネス ( 赤 )

手順 9： バッテリーマイナス側を元に戻します。

手順 10： イグニッションボタンでエンジンを始動させ DPS の作動確認を行います。作動確認が終わりましたら取り外したコラムカバーを元に戻し取り付け終了です。  
付属の取扱説明書に従い（チャンネル設定、輝度調整、G センサー設定、ピーク回転数の設定等）各設定を行ってください。

\* DPSには、展示モード、デモモード、通常モードの作動環境がプリセットされています。

1. 初期の設定は、展示モード（ステアリング側の受送信器に12Vを通電すると自動で各表示項目を順に作動しながら表示していきます。）
2. デモモードは、（ステアリング側の受送信器に12Vを通電すると左右の操作ボタンで各ファンクションを操作することができます。）
3. 通常モードは、車両に装着した状態でステアリング側の送受信機と車両側の送受信機がWIFIにてペアリングした状態で作動します。
4. 初期設定からデモモード⇒通常モードに移動するにはステアリングの左右のボタンを同時押ししながら車両のスターターボタンを押すことにより切り替えることができます。
5. 誤動作を防ぐため一人では切り替えができない構造になっております。  
ドライバーがステアリングの左右のボタンを押しながら協力者にスターターボタンを押していただいでください。
6. 順次各モードに切り替わります。WIFI がペアリングしない場合は、スターターボタンのスタート、ストップを繰り返すとペアリングします。

車両の外部環境の電氣的ノイズ、電波障害などによりWIFI がペアリングしない場合は、車両を移動しスターターボタンのスタートとストップを行っていただきますとペアリングします。

※お取り付けに際しご不明点等ございましたら弊社までお問い合わせくださいませ。

**DAMD Inc.**

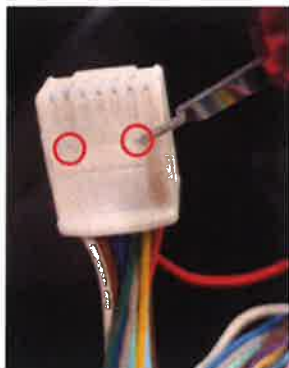
株式会社 ダムド  
〒242-0001 神奈川県大和市下鶴間45-1  
TEL.046-271-5599 FAX.046-272-2266  
<http://www.damd.co.jp>

手順 6： 車両側ロールコネクタの 14 ピンメスコネクタ (12370) の 7 番へ  
付属配線の電源部ハーネス (赤) を挿入します。

A・・・端子リリースツール



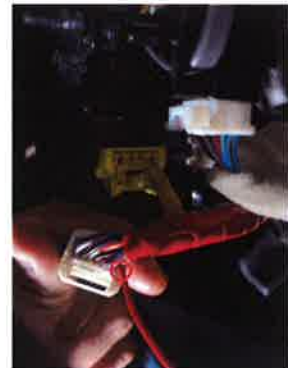
① 外したコラムカバーの  
○位置にあるロールコネクタ  
メス端子を外します。



② コネクタの○クリップ嵌合を  
A等で持ち上げ外します。



③ ○ 7 番の位置を確認します。



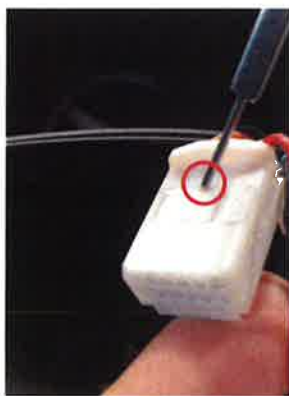
④ コネクタに付属配線の  
電源部ハーネス (赤) を  
○ 7 番へ挿入し、  
クリップの嵌合を戻し、  
コネクタを元の位置に戻します。

手順 7： ステアリングホイール側 メインコネクタ (12361)12 番へ  
付属配線の電源部 4P ハーネスの赤端子を接続します。

A・・・端子リリースツール



① ○ のコネクタを外します。



② コネクタの○クリップ嵌合を  
A等で持ち上げ外します。

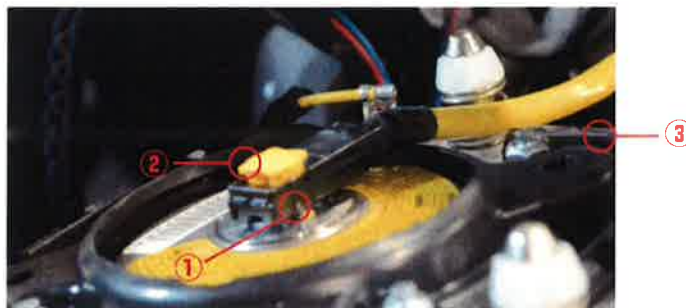


③ ○ 12 番の位置を確認します。



④ コネクタに付属配線の  
電源部 4P ハーネス (赤) を  
○ 12 番へ挿入し、  
クリップの嵌合を戻し、  
コネクタを元の位置に戻します。

手順 8： ステアリングのエアバッグコネクタ及びホーン信号端子を取り付けステアリングに戻します。



戻す順番は①エアバッグコネクタ→②エアバッグ安全ピン→③ホーン信号端子の順番で戻してください。



# SUBARU ver.2 (コネクタ端子に空きがない場合)

## DAMD パフォーマンスステアリングホイール DPS360-RX 取付け手順 及び DPS 通信システム結線説明書

### 必要工具



\* 取付け時のご注意 \*

- 必ず平坦な場所で取付けを行って下さい。
- ステアリングはタイヤが真っ直ぐになるように調整してからイグニッションスイッチ OFF にし、作業に取り掛かってください。
- エアバッグを外した状態でイグニッションスイッチ ON にすると警告が出る場合がございます。この場合は、エアバッグを戻しエンジンをかけて時間をおくと初期状態に戻ります。

### 構成部品

DPS本体	1
OBDIIコネクタ・送信部	各 1
受信部	1
伸縮チューブ	2
電源部ハーネス(赤)	1
電源部4Pハーネス	1
アース部ハーネス	1
LED(端子抜き用)	2
結束バンド / 配線固定フック	5本 / 2

### 結線説明

車両側よりステアリングホイール側の DPS へ電源供給 (12V) する為にステアリングコラム内にあるロールコネクタを使用します。スバルレヴォーグ D 型以降又は、コネクタに空き配線が無い場合回路図の中のマイナス側を車両アースに落とすことにより、電源供給の 12V を供給する為の空き配線をつくります。以下配線作業が必要となります。

パフォーマンスステアリング本体



OBDIIコネクタ・送信部



受信部



結束バンド・配線固定用フック



LED(端子抜き用)



電源部ハーネス(赤)

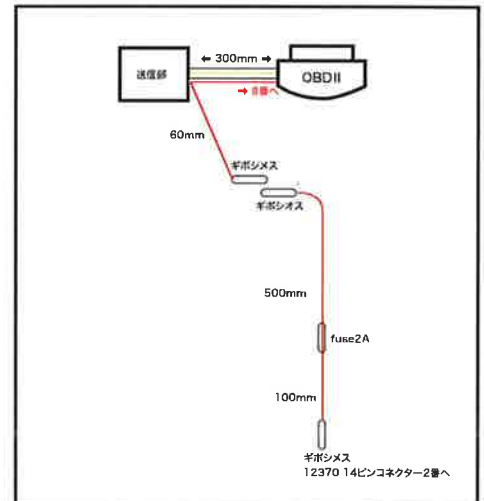


電源部4Pハーネス



アース部ハーネス・伸縮チューブ

送信部配線図

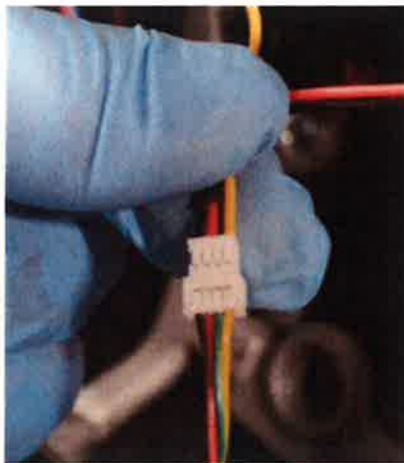


手順 1 : 付属の SS360-RX 取付説明書を参考に現在装着されているステアリングを取り外します。DPS ステアリング側の配線を行います。

手順 2 : ステアリング側の WIFI 受信部のハーネスにステアリング側左右から出ているコネクタを L/R 間違わないように結線し、電源部 4P ハーネスのコネクタを結線します。



① ステアリング両側から出ている赤と青のケーブルがついたコネクタを受信部のコネクタと左右とも結線します。  
※L/R間違えないように注意してください。



② 電源部 4P ハーネスコネクタも受信部と結線します。

手順 3 : 電源部 4P ハーネスのアース線の黒の丸型ターミナルとアース部ハーネスの丸型ターミナルをステアリング左下に雌ネジで固定します。

※アース線はダイキャスト部に平行になるよう取り付けください。



手順 4 : ステアリングホイール内の各ケーブルハーネスと WIFI 受信部をエアバッグのホーンスプリング部分に噛み込まないようにまとめてステアリングダイキャスト部分よりも前に配線類が出ないように結束バンドで固定し、ステアリングスイッチを組み付けて車体へ DPS を取り付けます。

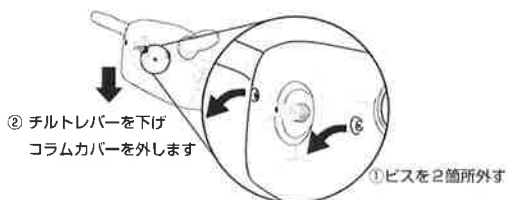


WiFi 受信部

○のステアリングダイキャスト部分に付属の結束バンド等で、各ケーブルハーネスと WIFI 受信部をまとめます。

手順 5 : ステアリング後方のコラムカバーのビスを 2箇所外し、チルトレバーを下げ、カバーを取り外します。

この時点で送信部と OBD II を装着し、付属の OBD II ギボシ雌端子と電源部ハーネス (赤) のギボシ雄端子をつなぎ、電源部ハーネス (赤) をコラムカバーまで通し配線します。

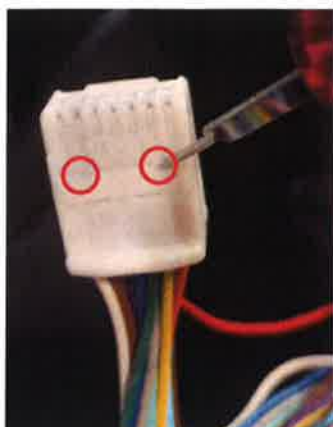


手順 6： 車両側ロールコネクタのメスコネクタ (12370) 2番黒色のアース線端子をコネクタより抜き取り、付属配線の電源部ハーネス (赤) を挿入します。  
 (※抜きとった黒色アース線端子は折り返し、テープ等で巻いてまとめておきます。)

A・・・ 端子リリースツール 又は 付属の LED 足



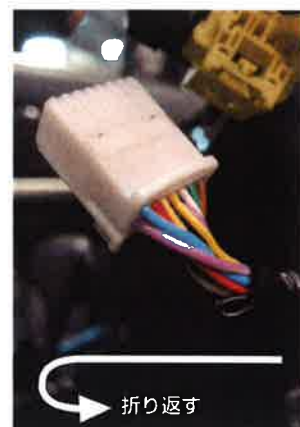
① 外したコラムカバーの  
 ○位置にあるロールコネクタ  
 メス端子を外します。



② コネクタの○クリップ嵌合を  
 [A]等で持ち上げ外します。



③ ○2番の黒色アース線端子を  
 [A]等で画像のように押し外し、  
 送信部から引っ張ってきた  
 付属の電源供給線端子 A を挿入します。



④ 外した黒色アース線端子は折り返し、  
 画像のようにテープを巻いて留めてください。  
 ②のクリップ嵌合を戻して  
 ロールコネクタを元の位置に装着します。

手順 7： ステアリングホイール側 バドルシフトのコネクタ (12360) 4番グレーのメス端子を抜き取り、付属配線のアース部ハーネスのオス端子を接続し、伸縮チューブにて保護します。

A・・・ 端子リリースツール 又は 付属の LED 足



① ○のコネクタを外し、  
 4番に接続されている  
 灰色のメス端子を抜きます。



② コネクタの○クリップ嵌合を  
 [A]等で持ち上げ外します。



③ ○4番の灰色メス端子を  
 [A]等で画像のように  
 押し外し、持ち上げてある  
 クリップ嵌合を元に戻します。



④ 押し外した灰色メス端子と  
 付属配線のアース部ハーネスのオス端子を接続し、  
 付属の伸縮チューブにて保護します。

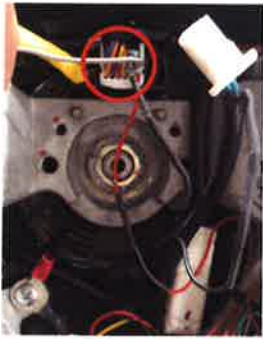


⑤ 伸縮チューブにヒートガン等で  
 熱を加え密着させ保護します。



手順 8：ステアリングホイール側 メインコネクタ (12183) 7 番水色のメス端子を抜き取り、付属配線のアース部ハーネスのオス端子を接続し、伸縮チューブにて保護します。

A... 端子リリースツール 又は 付属の LED 足



① ①のコネクタを外し、7番に接続されている水色のメス端子を抜きます。



② コネクタの②クリップ嵌合を [A] 等で持ち上げ外します。



③ ③の7番の水色メス端子を [A] 等で画像のように押し外します。



④ 押し外した水色メス端子と付属配線アース部ハーネスのオス端子を接続し、付属の伸縮チューブにて保護します。



⑤ 伸縮チューブにヒートガン等で熱を加え密着させ保護します。

手順 9：ステアリングホイール側 メインコネクタ (12183) の 7 番へ付属の電源部 4P ハーネスコネクタから赤の電源メス端子を挿入します。挿入が完了したら手順 5・6 のコネクタ (12360・12183) をロールコネクタへ戻します。

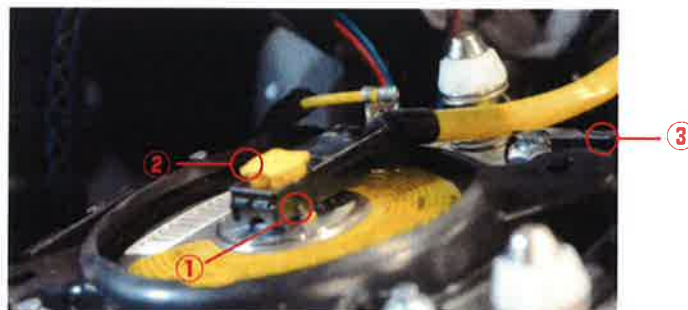


① 水色の端子を抜いた 7 番に付属の電源部 4P ハーネスコネクタをしっかりと挿入しクリップ嵌合を元に戻します。



② 12360・12183 コネクタを元の位置に戻します。

手順 10：ステアリングのエアバッグコネクタ及びホーン信号端子を取り付けステアリングに戻します。



戻す順番は①エアバッグコネクタ→②エアバッグ安全ピン→③ホーン信号端子の順番で戻してください。



手順 11 : バッテリーマイナス側を元に戻します。

手順 12 : イグニッションボタンでエンジンを始動させ DPS の作動確認を行います。作動確認が終わりましたら取り外したコラムカバーを元に戻し取り付け終了です。  
付属の取扱説明書に従い (チャンネル設定、輝度調整、G センサー設定、ピーク回転数の設定等) 各設定を行ってください。



車両側、及びステアリング側の DPS への電源取付につきましては、  
車種、年式、グレード等で空きコネクタの位置が異なる場合があります。  
テスターで車両側、及びステアリング側の空き端子の導通を確認後メス端子をコネクタに挿入してください。

\* DPSには、展示モード、デモモード、通常モードの作動環境がプリセットされています。

1. 初期の設定は、展示モード (ステアリング側の受送受信器に 12V を通電すると自動で各表示項目を順に作動しながら表示していきます。)
2. デモモードは、(ステアリング側の受送受信器に 12V を通電すると左右の操作ボタンで各ファンクションを操作することができます。)
3. 通常モードは、車両に装着した状態でステアリング側の送受信機と車両側の送受信機が WIFI にてペアリングした状態で作動します。
4. 初期設定からデモモード⇒通常モードに移動するにはステアリングの左右のボタンを同時押ししながら車両のスターターボタンを押しすることにより切り替えることができます。
5. 誤動作を防ぐため一人では切り替えができない構造になっております。  
ドライバーがステアリングの左右のボタンを押しながら協力者にスターターボタンを押ししていただいでください。
6. 順次各モードに切り替わります。WIFI がペアリングしない場合は、スターターボタンのスタート、ストップを繰り返すとペアリングします。

車両の外部環境の電氣的ノイズ、電波障害などにより WIFI がペアリングしない場合は、  
車両を移動しスターターボタンのスタートとストップを行っていただきますとペアリングします。

※お取り付けに際しご不明点等がございましたら弊社までお問い合わせくださいませ。

**DAMD Inc.**

株式会社 ダムド  
〒242-0001 神奈川県大和市下鶴間45-1  
TEL.046-271-5599 FAX.046-272-2266  
<http://www.damd.co.jp>

# スポーツステアリングホイール SS360-RX/RS取り付け手順

## 必要工具



プラスドライバー



マイナスドライバー



10mmスパナ



LEDペンライト



17mmホックスレンチ  
(十字レンチでも可)



\*取り付け時のご注意\*

- 必ずステアリングはタイヤが真っ直ぐになるように調整してからイグニッションスイッチOFFにし、作業に取り掛かってください。
- エアバッグを外した状態でイグニッションスイッチONすると警告が出る場合がございます。この場合は、エアバッグを戻しエンジンをかけて時間をおくと初期状態に戻ります。
- アイサイト付車は、バッテリーを外すと警告が出る場合がございます。

## 手順 1



必ずイグニッションスイッチOFFにしてバッテリーのマイナス端子を外し、ショートしないように端子の保護固定を行います。作業開始までに1分以上待機して下さい。

すぐに作業を始めるとエアバッグに信号が送られる可能性があります。危険です。

## 手順 2



細いマイナスドライバーにてエアバッグモジュールの左・右・下にある3箇所の穴からLEDペンライトなどで内部をのぞき、エアバッグのロックピンを押し取外します。

手順3



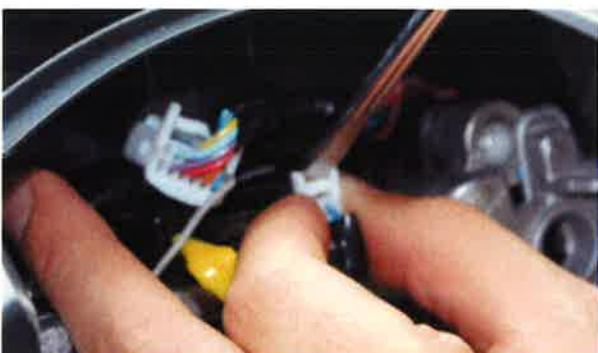
タイヤが真っ直ぐになるようステアリングが水平に調整されていることを確認してからカバーを外します。

手順4



モジュール裏面にあるホーンコネクタ、エアバッグコネクタを外します。  
(黄色いロックピンをマイナスドライバーなどで持ち上げて外してから、黒い部分を同様に持ち上げる)

手順5



ステアリング中心上部にあるロールコネクタのオーディオ、ホーンの端子を抜きます。

手順6



ステアリングのセンター位置をマーキングします。舵角センサー位置に注意して下さい。



手順7



ステアリング中心上部にあるロールコネクタのオーディオ、ホーンの端子を抜いた状態でセンターのナット17MMを緩めます。  
**この際、完全にナットを外さずに残し、ステアリングホイールが固く縮まっていますので、手前に叩くようにして緩めていきます。**  
外れたらナットを取り外しステアリングを外します。

手順8



パドルスイッチ、バックカバーのビスを緩め取り外します。

手順9



裏側にあるピンを外してからコントロールスイッチ端子を抜きます。

手順10



カバーを外し、ステアリングスイッチカバーのビス3箇所とピン3箇所を取り外します。



手順 1 1



外したピンを交換するステアリングホイールに取付け後、逆の手順でステアリングホイールに各穴位置を確認しながらスイッチカバー、バックカバー、パドルシフト等を取り付けます。

手順 1 2



ロールコネクター、舵角センサーの位置を確認後、ステアリングホイールのセンター位置を確認しながらシャフトに確実に固定します。  
(ナットの締め付けトルクは、45Nm (4.6kgf-m) となります。)

手順 1 3



エアバッグコネクタ、ホーンコネクタ、オーディオコネクタを接続しエアバッグモジュールを取り付けます。(トルクスレンチの締め付けトルクは、10Nm (1.0kgf-m) となります。)

手順 1 4



バッテリーのマイナス端子をバッテリーに取り付けたら完成です。  
お疲れ様でした。

※取付したステアリングホイールのセンターが出ない場合は、タイロットの調整が必要です。カーショップ、ディーラー等にお問い合わせください。



# ダムド パフォーマンスステアリング (DPS) 通信システムの結線に関する説明書

## 本説明書について

DPS は日本国内で販売されている純正車両をベースとした各車両の取付ならびに詳細な結線説明書をキットに同梱しておりますが、各車両のグレード/年式/販売国等により結線の仕様が異なる場合がございます。その場合、ステアリングホイール側とロールコネクタ側の各コネクタ端子の導通をテストの抵抗値にして確認して、施工にあたっていただく必要がございます。

この説明書は基本的な DPS の結線について説明を行ない、上記のような理由により付属結線説明書と仕様が異なった場合に、より深く DPS の配線についてご理解をいただく為の結線に関する汎用説明書です。

施工前にこちらの説明書を必ずお読みいただき、基本的な結線方法と DPS の配線・結線についてご理解の上、作業・ご対応をいただきますようお願い申し上げます。

各作業の詳細に関しましては、各車両の取付ならびに結線説明書をご確認ください。

## 【DPS への電源供給】

DPS は車両のアクセサリ電源を利用します。

DPS 送信部には車両情報を取得する OBD II コネクタが付属していますが、車両側の OBD II コネクタ端子には**アクセサリ電源が供給されている車両**と**供給されていない車両**があります。

### 1. OBD2 コネクタ端子にアクセサリ電源が供給されている車両の場合

OBD2 コネクタを接続することによりアクセサリ電源が供給されるため、付属の延長ハーネスをコラムカバー内のロールコネクタ端子に挿入し、既存の配線を介して、ステアリングホイール側の DPS 本体ならびに DPS 受信部へ電源供給 (12V) を行ないます。

### 2. OBD2 コネクタ端子にアクセサリ電源が供給されていない車両の場合

付属のヒューズ付きホルダを使用し、ヒューズボックス内のアクセサリヒューズ (ACC fuse) より延長ハーネスで送信部まで電源を供給します。

ACC 電源取得後は、上記<1>と同様に延長ハーネスにてコラムカバー内のロールコネクタ端子を介してステアリングホイール側の DPS 本体ならびに DPS 受信機へ電源供給（12V）行ないます。

## 【ロールコネクタ側のコネクタ端子の結線】

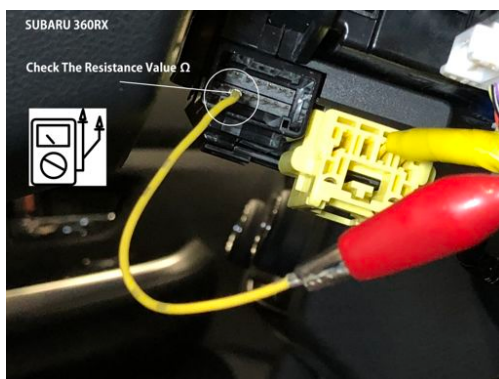
※ 以下の作業は必ずイグニッションスイッチが OFF の状態、及びバッテリーマイナス端子を外した状態で作業を行なって下さい。

### A. ロールコネクタ側のコネクタ端子に空きがある場合

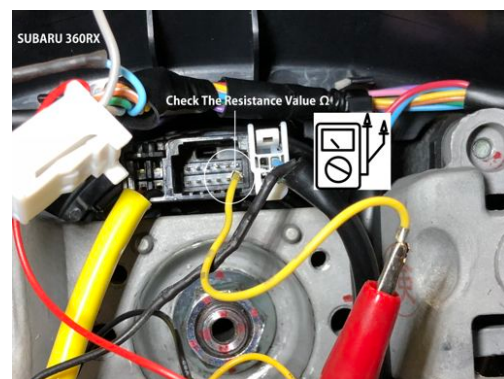
#### <STEP 1> 導通の確認

ロールコネクタ側のコネクタ端子とステアリングホイール側のコネクタ端子の導通を行い、テスタの抵抗値をチェックして、何番のコラムカバー側のコネクタ端子と、何番のステアリングホイール側のコネクタ端子が接続されているかを確認します。

※ 車両や年式、グレードにより接続されているコネクタの端子位置が異なりますので、ご注意下さい。



ロールコネクタ側



ステアリングホイール側

#### <STEP 2> ロールコネクタ端子への接続

コネクタの端子の接続位置を確認したら、ロールコネクタ側のコネクタを外し、コネクタのロックピンを引き上げ、導通のある位置へ DPS の端子を挿入し、ロックピンを押し込み、端子を固定した後、ロールコネクタ側のコネクタを再度差し込みます。

#### <STEP 3> ステアリングホイール側コネクタ端子への接続

ステアリングホイール側のコネクタを外し、導通を確認したコネクタ端子の空き部分に、<STEP 2>と同様にロックピンを引き上げ、導通のある位置へ DPS 受信機電源ハーネスのプラス側端子を挿入し、ロックピン押し込み端子を固定します。

DPS 受信機電源ハーネスのマイナス側をステアリングホイールのダイキャスト部分に、ネジ等で固定し接続、グラウンド（マイナス配線）の接続を行います。

B. ロールコネクタ側のコネクタ端子に空きがない場合

ステアリングホイール側のコネクタ端子に空きがある場合と無い場合があります。

① ステアリングホイール側のコネクタ端子に空きがある場合。

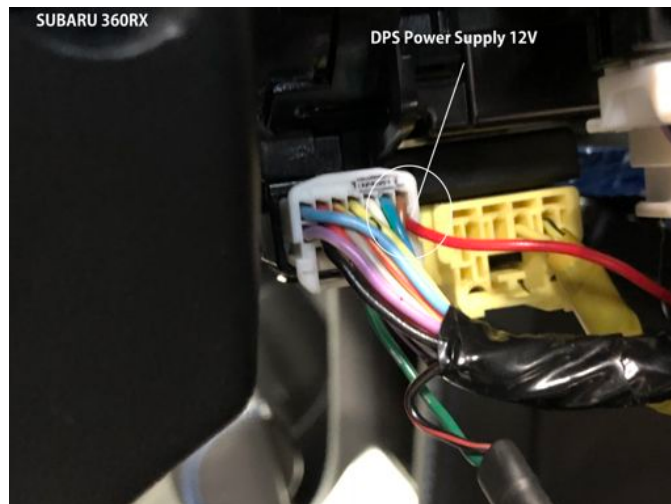
**<STEP 1> 導通の確認**

ロールコネクタ側のコネクタ端子に使用していない配線があります。

ロールコネクタ側のコネクタを外し、ステアリングホイール側のコネクタ空き端子とロールコネクタ側の各端子の導通をテストの抵抗値でチェックし、ロールコネクタ側と何番の端子がステアリングホイールの空き端子と導通しているか確認します。

**<STEP 2> ロールコネクタ側端子の差し替え**

ステアリングホイール側のコネクタ空き端子と導通があった位置のロールコネクタ側端子をコネクタのロックピンを引き上げて抜きます。抜いた箇所に DPS の送信部から分配されている電源ハーネスの端子を差し込み、ロックピンを押し込んで固定し、コネクタを元に戻します。引き抜いた純正ハーネスの端子はテーピング等を行い、必ず絶縁処理を行なって下さい。



ロールコネクタ側

**<STEP 3> ステアリングホイール側コネクタへの接続**

ステアリングホイール側のコネクタを外し、導通を確認したコネクタ端子の空き部分に、<STEP 2>と同様にロックピンを引き上げ、導通のある位置へ DPS 受信機電源ハーネスのプラス側端子を挿入し、ロックピン押し込み端子を固定します。

DPS 受信機電源ハーネスのマイナス側をステアリングホイールのダイキャスト部分に固定し、グラウンド（マイナス配線）の接続を行います。



② ステアリングホイール側のコネクタ端子に空きがない場合。

〈STEP 1〉 ロールコネクタ端子マイナス（グラウンド）配線の確認

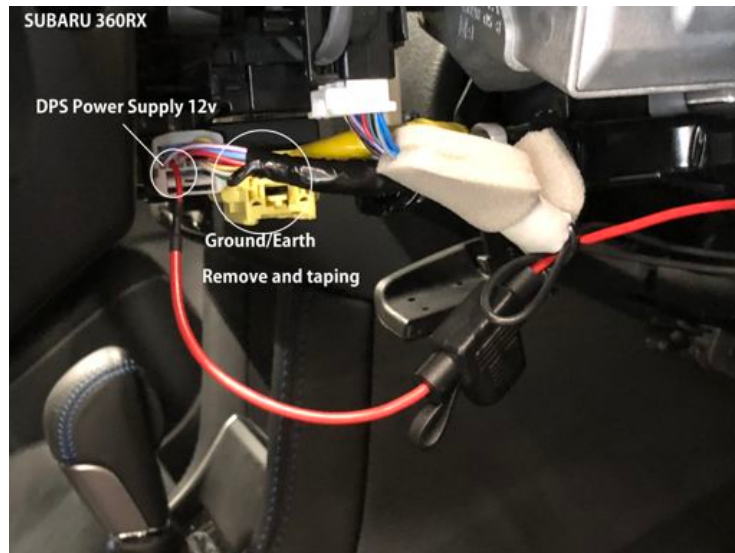
ロールコネクタに供給されているマイナス（グラウンド）配線を利用します。

車両ごとの配線図、または配線図が無い場合はテストを用いてロールコネクタ側のコネクタを抜き、マイナス（グラウンド）配線のコネクタ端子番号を確認します。

〈STEP 2〉 ロールコネクタ側端子の差し替え

〈STEP 1〉にて確認したマイナス端子をロールコネクタ側のコネクタのロックピンを引き上げて抜きます。抜いた箇所に DPS の送信部から分配されている電源ハーネスの端子を差し込み、ロックピンを押し込んで固定し、コネクタを元に戻します。

引き抜いた純正ハーネスの端子はテーピング等を行い、必ず絶縁処理を行なって下さい。



ロールコネクタ側

〈STEP 3〉 ステアリングホイール側コネクタへの接続

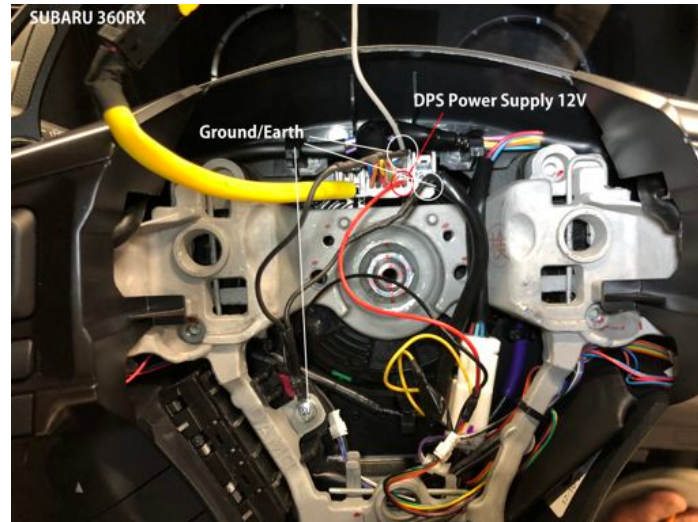
ステアリングホイール側コネクタを外し、ロックピンを引き上げ、導通を確認したマイナス配線のコネクタ端子を抜きます。

（ステアリングホイール側のマイナス配線位置は2か所ある場合があります。）

抜いた端子と付属のマイナス配線用ハーネスを接続して、収縮チューブで絶縁処理と接続部分の補強を施します。

導通を確認し、マイナス端子を抜いたコネクタ端子の空き部分に、DPS 受信機電源ハーネスのプラス側端子を挿入し、ロックピン押し込み端子を固定します。

DPS 受信機電源ハーネスのマイナス側と付属のマイナス配線用ハーネスの丸端子をステアリングホイールのダイキャスト部分に固定し、グラウンド（マイナス配線）の接続を行います。



ステアリングホイール側

## 【導通の最終確認】

各結線が完了しましたら、イグニッションスイッチを入れアクセサリ電源が供給される状態で DPS の送信機側、受信機側の作動を確認してください。

送信機の LED が全て点灯・点滅し、ステアリングホイール側の DPS 表示部の LED が点灯、モニター一部にも情報が表示されれば、結線は完了です。

### 〈送信機のエラー識別〉

赤色の LED が点灯しない場合は、電源が供給されていません。

緑色の LED が点滅しない場合は、車両情報が供給されていません。

オレンジ色の LED が点灯しない場合は、ステアリングホイール側の受信部との WIFI のペアリングが完了していません。

上記の状態、また DPS 表示部の反応が確認出来ない場合は、再度結線の状態をご確認ください。

ペアリング方法につきましては、取扱説明書に記載されていますのでご確認ください。